

令和7年度 第1回三鷹市スポーツ推進審議会 会議要旨

開催日	令和7年4月18日（金曜日）	時間	15：30～17：00
会場	三鷹市教育センター2階 第二中研修室 (オンライン併用)	傍聴人数	0人
出席者	助友委員、寺田委員、吉田委員、國澤委員、苔口委員、鈴木委員、高柳委員、安中委員、坂下委員、相原委員、大鶴委員		
欠席者	牛山委員、屋敷委員、溝口委員		
行政	大朝スポーツと文化部長、平山スポーツと文化部調整担当部長、市橋スポーツ推進担当課長、福田スポーツ推進課主査		
内容	<p>1 開会あいさつ（助友会長）</p> <p>2 開会（事務局）</p> <p>(1) 委員出席状況について 委員の出席状況は、委員定数14人のうち11人の出席により、委員の過半数が出席し、定足数に達していることから、本日のスポーツ推進審議会は有効に成立している。</p> <p>(2) 傍聴希望について 市民会議、審議会等の傍聴は、「三鷹市市民会議、審議会等の会議の公開に関する条例」に基づき、原則として公開している。本日は、現時点で傍聴の希望はないが、希望があった場合、条例に基づき入場いただく。</p> <p>(3) 会議録の作成と公開について 三鷹市の市民会議、審議会等では、会議録を要録として作成し、公開している。会議の内容を録音し、会議録の原案を出席委員に確認のうえ、市のホームページと総務部相談・情報課にて公開を行う。</p> <p>3 議題に係る各委員からの意見等</p> <p>(1) 三鷹市スポーツ協会への補助金の交付について 鈴木委員：3点確認事項がある。1点目は、スポーツ協会への補助金対象団体は30団体ということだが、昨年度より1団体減ったのは申請がなかったという認識でよろしいか。2点目は、スポーツ少年団は当該補助金の対象になっていないのか。3点目は、各団体に対してスポーツ協会が配分額を決定しているのか。 平山調整担当部長：30団体というのは、これまで加盟していたゲートボール協会が退会して1団体減ったということである。また、各団体への補助金の配分額については、団体ごとの活動の性質や会員数等によって変わっていたりするが、スポーツ協会の中で一定の基準に基づいて支出されている。スポーツ少年団についても、事業費補助の対象に含まれている。 吉田委員：スポーツ協会の補助金の各団体への交付額について補足になるが、定額で交付される部分と各団体の会員数に応じた割合で交付される部分がある。 安中委員：スポーツ協会への交付額について、三鷹市だけの資料だとその金額が適</p>		

<p>内 容</p>	<p>正かどうか判断しにくい。参考までに三鷹市と同規模の自治体がどのくらい交付しているのかなどのデータも提示してもらえると良いと思う。また、人件費が交付額の多くを占めていると感じたが、スポーツ協会は何名体制となっているのか。</p> <p>平山調整担当部長：まず近隣市比較については現時点でそのような資料はないので、用意ができるかどうか検討する。人件費については、スポーツ協会は局長1名と会計年度職員1名の合計2名体制となっている。</p> <p>助友会長：三鷹市スポーツ協会への補助金交付については、審議会として異議なしでよろしいか。</p> <p>委員全員：異議なし。</p> <p>(2) 三鷹市スポーツ推進計画 2027 について</p> <p>(3) 令和7年度の主な事業について</p> <p>寺田委員：スポーツ施設の設備関連について、熱中症対策はどのようになっているのか。まずスポーツ施設の現状がどのようになっている、今後どのような対策を考えているのか教えてほしい。また、元気創造プラザにおけるスポーツや文化活動の融合化についても同様に教えてほしい。</p> <p>平山調整担当部長：近年の猛暑の中で、特に外施設で運動するのは非常に危険が伴うと認識している。指定管理者であるスポーツと文化財団と連携をして、施設利用者への注意喚起を徹底するほか、スポーツボランティアや施設利用者を対象とした講座を開催するなどの対策を継続して行っている。また、井口グラウンドや大沢総合グラウンドにおいては、人工芝のグラウンド内に散水ミストを設置するなど熱中症対策を図っている。スポーツ協会でもスポットクーラーを購入して利用者に貸し出すなど、熱中症に対しては様々な注意を払って対策しているところである。</p> <p>2番目の質問の元気創造プラザにおけるスポーツや文化活動の融合化については、12月に元気創造プラザ内にあるSUBARU総合スポーツセンター、生涯学習センター、防災課、健康推進課などが一緒になってイベントを行う「まるごとウェルカムデー」を開催している。</p> <p>寺田委員：「まるごとウェルカムデー」については、そのプロジェクトを行う職員だけでなく、参加者がそのイベントに参加することにより、スポーツと文化の融合ということを考えるきっかけや新たな発見につながっていく非常に良い取り組みかと思うので、どんどん広げていって欲しい。スポーツ施設については、屋内施設の冷暖房や屋外施設の給水場はすでに整備されているという認識でよろしいか。</p> <p>平山調整担当部長：屋内施設については、SUBARU総合スポーツセンターのほか、体育館などの学校施設についても冷暖房が完備されている状況である。また、冷水器についても各施設に設置をしたうえで、クールスポットとしてどなたでも気軽に利用できる旨を周知するなど、熱中症対策を図っている。</p> <p>助友会長：これまでの説明を聞いて、施設関連はすでに整備が行き届いていると感じた。一方で、注意喚起という説明もあったが、スポーツをされる方に対する意識や教育的な部分についても、より充実していくと良いのではない</p>
------------	--

<p>内 容</p>	<p>かと感じた。</p> <p>坂下委員：スポーツ活動を行っている市民の割合が、令和4年度は 57.5%になっており、今回の計画の目標値が 65%となっている。この数値は、他の市と比較した時に、多いのか少ないのかを教えて欲しい。また、計画に掲載されているアンケート調査結果では、スポーツができない理由のうち「忙しくて時間がない」という回答が多かったが、今後具体的な展開や取り組みはあるのか。また、この計画期間はどのくらいを想定しているのか。その期間内で、目標達成に向けた PDCA みたいな進捗確認等はどのように考えているのか。</p> <p>平山調整担当部長：質問項目等が三鷹市の調査とすべて一致している訳ではないが、スポーツ庁の全国調査だと、令和5年度のスポーツ実施率は 52%となっている。東京都全体のスポーツ実施率は、三鷹市よりも高くなっていたと認識しているが、近隣自治体でも三鷹市同様の 57%近辺の数値と、東京都の数値に近い自治体が半々程度だった印象である。前回の計画でも目標値は 65%に設定したが達成できなかった経過があるので、今期の計画においても引き続き 65%を目指していくところである。</p> <p>スポーツができない理由等の部分に対する取り組みについては、特にスポーツ実施率の低い働く世代に対して、ちょっとした隙間時間でも参加できたり親子と一緒にできる教室開催のほか、運動メニューの紹介等を積極的に導入できないか検討している。また、タッタカくんアプリのスタンプラリーや街歩きイベント等を活用して、ウォーキングやランニングを気軽に行ってもらうなど、運動習慣の向上に努めていきたい。</p> <p>成果指標の達成と進捗状況の確認等について、成果指標を達成するためにはどのような事業を実施していくのかという部分は、計画に詳細を記載はしていないが、細かい事業を政策と紐付けているところである。これまでも審議会内で議論をいただいてきた広報での周知については、どのような広報を行い、参加人数などはどのような結果になったのかなど、事務局からもこれまで以上に丁寧に説明していきたい。広報が効果的だったのか、ターゲティングはどうだったのかなど皆様からフィードバックをもらうなど、年度ごとにポイントポイントでご議論いただけるような資料を提供したいと考えている。</p> <p>なお、計画期間については、令和6年度から令和9年度までの4か年の計画となっている。</p> <p>相原委員：計画に記載のある「科学的根拠に基づく、スポーツを通じた健康増進事業の展開」というのは、実際にはどのような内容なのか。これまで何かデータの蓄積があるのか、それともこれから新たに実施し始めるということなのか。</p> <p>平山調整担当部長：今回の計画を策定する以前に、「健康福祉づくりの基本的な考え方」というものを作成しており、その基本的な考え方をこのスポーツ推進計画に統合したという経過がある。東京都が推進している健康づくりで基にしている「メッツ」という身体活動の強度を示す単位があり、それを一つの根拠としている。少しでも運動することで、健康増進効果があるとい</p>
------------	--

<p>内 容</p>	<p>うことを周知するチラシの作成・配付を行っているが、市民に浸透しているとは言い難いので、どのように周知させていくのかという事を委員の皆様とも議論しながら、効果的に取り組んでいけたらと考えている。</p> <p>安中委員：杉並区にマイスポーツという広報誌に面白そうなウォーキングイベントが掲載されていたので参加しようと思ったら、杉並区民じゃないと参加できないと断られてしまった。市民であり都民でもあるので、もう少し参加対象を広げても良いのではないかと思う。</p> <p>平山調整担当部長：三鷹市では、50人程度を定員とした市民歩こう会というイベントを年2回実施している。先月3月末にも実施し、50人ほどの参加があった。またスポーツと文化財団のスポーツ事業として、年4回ほど井の頭公園付近や大沢など市内を歩くウォーキング事業についても拡充して実施しているところである。</p> <p>苔口委員：市民歩こう会について補足だが、通常は10キロメートル程度のコースだが、6.2キロメートル程度の短いコースに設定して市民歩こう会を開催したところ、60名を超える申し込みがあった。ただし、市民歩こう会は少しPRが足りていないと感じているので、広報やHP等で早めに掲載するなどしっかりと周知を図っていきたい。令和7年度は11月と3月頃の実施を予定している。前回の歩こう会ではベビーカーを押しての参加者もいらっしやっただけで、平坦なコースの時などは車いすの方も参加できたりするようなイベントになれば良いと考えている。</p> <p>大鶴委員：自分自身は三鷹市外に住んでいる期間が長く、その時の友達と一緒に泳いだり歩いたりすることが多いので、他市の人でも三鷹市のイベントに参加できるような仕組みがあると良いと感じる。</p> <p>國澤委員：例えば、私が所属している地域スポーツクラブであるベッセルスポーツクラブでは、ベッセルフェストというイベントを年1回行っている。ここでは、パドルテニス、ボッチャ、ヨガ・吹き矢など普段行っているスポーツを紹介して参加者に体験してもらっている。他の地域スポーツクラブのスカイリミットスポーツクラブにもこのイベントに参加してもらい、キッズダンスやキックボクシングなどの体験も行っている。また、去年はマインドスポーツという位置付けで将棋部を創部した。</p> <p>なお、東京都スポーツ協会から中学校の部活動に協力して欲しいと要望があるが、ベッセルスポーツクラブでは協力できる種目がない状態である。今はスポーツをしっかりと行う子どもと全くやらない子の2極化が進んでいると聞くので、市内の部活動がどのように変化してきているのか気になる場所である。</p> <p>大朝部長：昨今の中学生の部活動事情については、土日や授業後の時間外活動における教員の働き方改革や少子化による生徒数の減少など複数の要素があるかと思う。本日、教職の委員が不在なので、詳細については次回にぜひお話いただけるよう調整する。</p> <p>(4) SUBARU総合スポーツセンターの利用状況等について</p> <p>助友会長：健康体力相談事業の利用率について、利用者数は延べ人数ということでよいか。利用者数が多い年度でも利用率が下がっている場合があるが、利</p>
------------	---

<p>内 容</p>	<p>用率を算出する際の分母はどのようになっているか。</p> <p>平山調整担当部長：利用者数は延べ人数となっている。また、利用率については利用可能枠数に対する利用枠数の割合となっている。例えば、月曜日から金曜日までそれぞれ同じ枠数を用意しているという訳ではなく、曜日などによっても枠数が異なることもある。それを年度単位でどれだけ埋まったかということ算出したのが、この利用率となっている。</p> <p>4 報告</p> <p>(1) 事業予定</p> <p>5月18日(日) わんぱく相撲三鷹場所</p> <p>5月25日(日) デフバレーボール女子日本代表選手との市民交流事業</p> <p>(2) スポーツ推進審議会日程</p> <p>第2回 令和7年7月24日(木) 前後</p> <p>第3回 令和7年10月24日(金) 前後</p> <p>第4回 令和8年2月13日(金) 前後</p> <p>※三鷹市議会の日程により、変更が生じる可能性があります</p> <p>5 閉会あいさつ(寺田副会長)</p>
------------	--